

CUC公開講座（2021年11月19日）

CUC統合報告書への SDGsを考慮した大学評価指標 適用について

【報告者】

商経学部 橋本隆子ゼミ一同

商経学部 奥寺葵ゼミ3年生一同

人間社会学部 齊藤紀子ゼミ3年生一同

本資料の流れ

1. USR活動評価（2017～2020年度研究活動）
 - 1-1. USR評価指標づくりの考え方
 - 1-2. 研究の背景・目的・進め方
 - 1-3. 評価指標案
2. 統合報告書による情報開示（2021年度研究活動）
 - 2-1. 本学発行の統合報告書
 - 2-2. 他大学発行の統合報告書との比較分析
 - 2-3. 本学統合報告書に盛り込むとよい指標の提案

1. USR活動評価

(2017～2020年度研究活動)

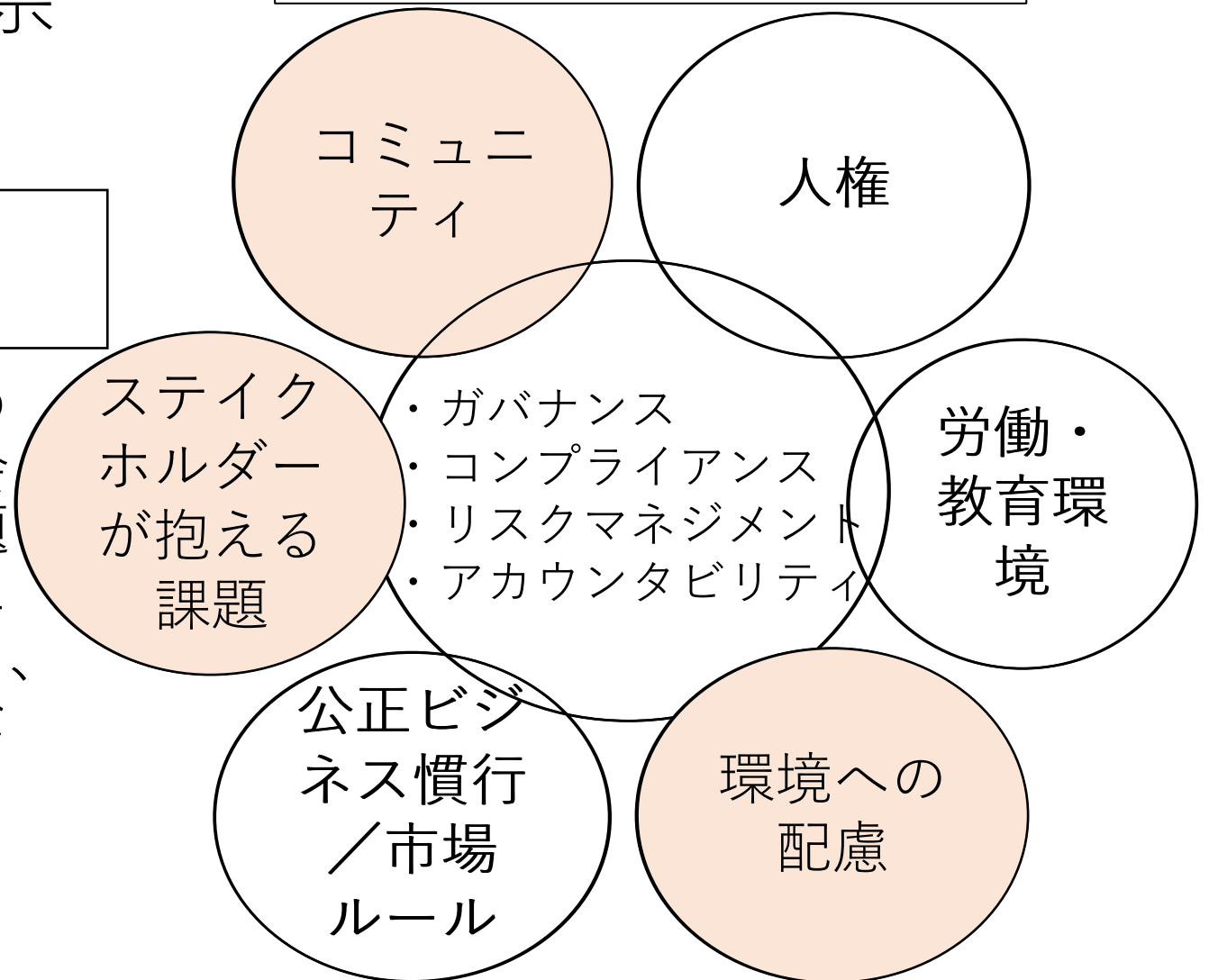
1-1. USR評価指標 づくりの考え方

USRとは
(University Social Responsibility)

大学が教育・研究等を通じて建学の精神等を実現していくために、社会（ステイクホルダー）の要請や課題等に柔軟に応え、その結果を社会に説明・還元できる経営組織を構築し、教職員がその諸活動において適正な大学運営を行うこと

(USR研究会2006)

USRの7つの中核課題



(出所) USR研究会 (2006) をもとに作成

USR評価：先行する取り組み（ランキング）とその課題



University of Indonesia Green Metric
World University Ranking (2010~)

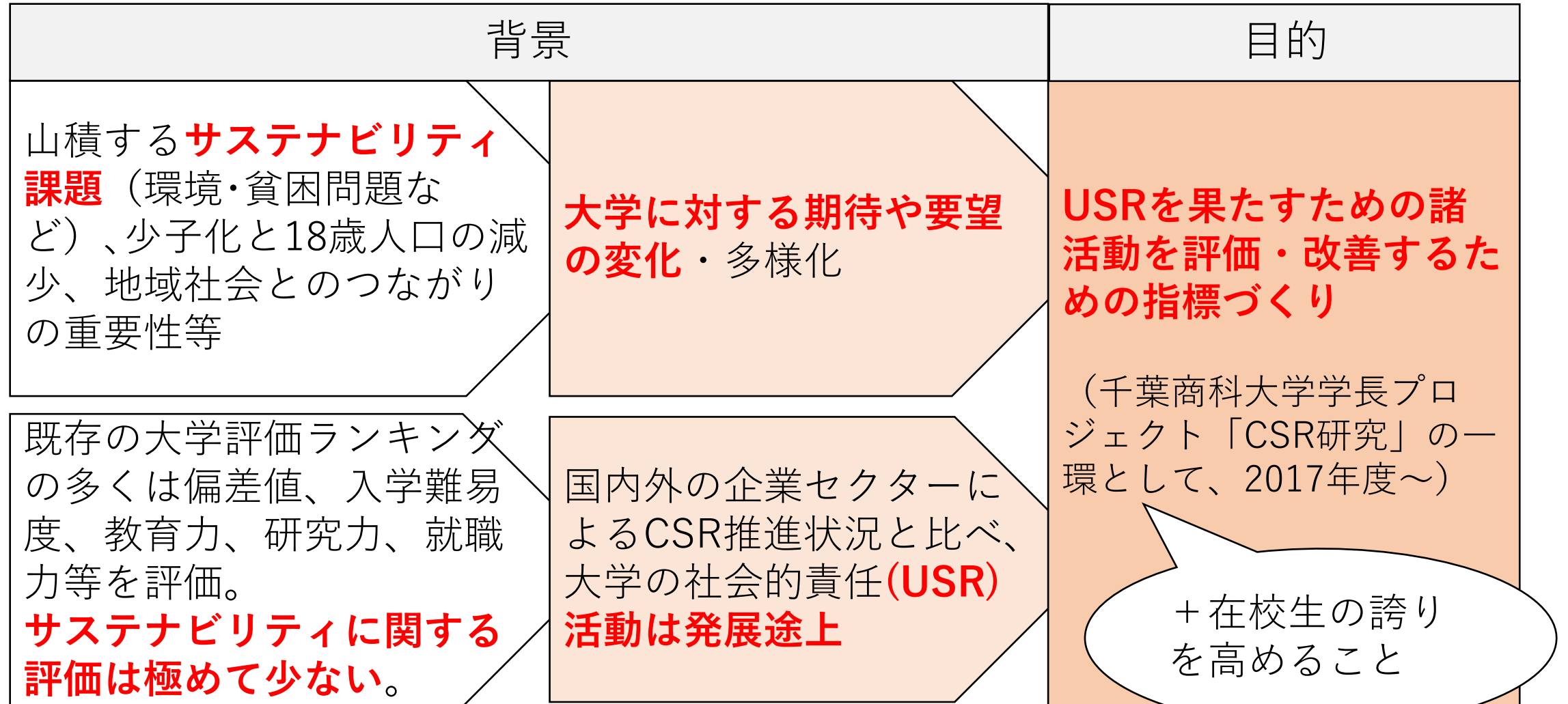


Times Higher Education Impact
Rankings (2019~)

- 途上国から先進国までの**あらゆる大学が回答可能な指標の設定が難しい**
- 一般的な認知度はまだ低く、「**USR活動の促進**」という機能はこれから

千葉商科大学では、USR研究会による課題群やこれらランキングの指標を参考にして、（日本国内の一定地域のような）限定的に適用可能な指標を独自に創り、USR活動の促進に寄与することを目指した。

1-2. 研究の背景・目的



研究の進め方（2017～2020年度研究活動）



1-3. 評価指標案

2017～2019年度
に開発した
指標・KPI案

コロナ禍を考慮し
た指標に

USR活動評価・
改善のための
自己チェック表に

USR活動評価・改善のための自己チェック表

自己評価/経年変化の把握

※すでにある指標（就職率や授業満足度、退学率など）に加えるものとして

2021年度 2022年度 2023年度

1. 全般

1-1.専任教員数（学部・大学院）	人	人	人
1-2.在籍学生数（学部・大学院）	人	人	人
1-3.教職員および学生のSDGs認知度	%	%	%
1-4.USRレポート／サステナビリティレポート／統合レポートといった、非財務情報を開示するメディアをもっているか	有／無	有／無	有／無
1-5.大学案内ツールにUSR／SDGsへの取り組みに関するページがあるか	有／無	有／無	有／無

2. 研究教育

2-1.SDGs関連科目数	科目数	科目数	科目数
2-2.SDGs関連研究予算	円	円	円
2-3.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト数	件	件	件
2-4.SDGs関連学生プロジェクト数	件	件	件
2-5.SDGs関連学生プロジェクトから生まれた商品／サービス数	件	件	件
2-6.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）の内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
2-7.教員が参画するSDGs関連研究プロジェクト（2-3）とSDGs関連学生プロジェクト（2-4）のうち、産/官/民と連携して実施しているプロジェクト数	件	件	件

3. コロナ禍の学生生活の改善（消費者課題）			
3-1.授業満足度	%	%	%
3-2.IT環境の整備状況：学内クラウドが整備されているか？	有／無	有／無	有／無
3-3.IT環境の整備状況：LMS（学習管理システム）を始めとするオンライン講義用ツール・環境が整備されているか？	有／無	有／無	有／無
3-4.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベント数	回	回	回
3-5.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントのうちオンラインによる実施回数	回	回	回
3-6.（授業外）人間関係づくりのための学生交流イベントの参加者数	人	人	人
3-7.図書館のオンライン蔵書検索機能および文献ダウンロードサービス	有／無	有／無	有／無
3-8.図書館利用者数	人	人	人
3-9.学内で開講している資格講座数	個	個	個
3-10.学内で開講している資格講座のうちオンラインで受講可能な講座数	個	個	個
3-11.学内で開講している資格講座の修了者数	人	人	人
3-12.学内で開講している資格講座の学生認知度	%	%	%
3-13.キャリアイベント数	回	回	回
3-14.キャリアイベントのうちオンラインで参加可能なイベント数	回	回	回
3-15.キャリアイベント参加者数	人	人	人
3-16.キャリアイベントの学生満足度	%	%	%

4. コロナ禍の地域社会との繋がり			
4-1.大学／教員が機会提供する社会活動（ボランティア等）への参加学生数（延べ人数）	人	人	人
4-2.その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
4-3.リカレント教育講座の修了者数（延べ人数）	人	人	人
4-4.それらリカレント教育講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。	Goal数	Goal数	Goal数
5. 環境問題への取り組み			
5-1.廃棄物の廃棄量／年（キャンパスが複数ある場合は総量）	t	t	t
5-2.リサイクル（資源回収）量／年（キャンパスが複数ある場合は総量）	t	t	t
5-3.年間エネルギー使用量（電気やガスの総量、J（ジュール換算））	GJ	GJ	GJ
5-4.年間水使用量（上水や中水の使用総量、井戸・地下水を利用している場合は、その使用総量）	t	t	t
5-5.教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後）	有／無	有／無	有／無

2. 統合報告書による情報開示 (2021年度研究活動)

2-1. 本学発行の統合報告書

2021年8月発行
(対象期間:2019-2020年度)

- はじめに：ステイクホルダーの方にどのような視点で読んでいただきたいか
- トップメッセージ（理事長・学長）
- 千葉商科大学価値創造プロセス図
- 特集：報告期間中の主なトピック
 - 【特集I】 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み
 - 【特集II】 自然エネルギー100%大学
 - 【特集III】 千葉商科大学とSDGsに関連する体系図
 - 【特集IV】) 学長プロジェクト
- 建学の精神と教育理念、歴史
- 活動実績：教育・研究、地域連携、大学から社会への接続、高大連携、数値で見る千葉商科大学、ガバナンス、財務情報



検索

千葉商科大学、統合報告書

本学の統合報告書における工夫・独自性： ISO26000の中核課題に沿った取り組みの整理、SDGsとの関連の整理

特別II 千葉商科大学における SDGs憲章と それに即した体系・ 取り組み

SDGs行動憲章

千葉商科大学は、その教育研究及び事業活動において、関連が深い普遍的な枠組みであるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する行動を推進します。

組織統治

1. ESG(環境・社会・ガバナンス)に配慮した大学運営を推進します。

教育・研究

2. 世界の課題を解決し未来を創造するため、「高い倫理観」「幅広い教養」「専門的な知識・技能」を有する人材(論議家(ちゆりか))を輩出するための教育及び学術研究を推進し、高等教育機関としての責務を果たします。

人権

3. 学生・教職員一人ひとりの個性や異なる価値観を受け入れ、相互理解を醸成し、各自の能力を十分に発揮できる環境を整えます。

環境・エネルギー

4. 地球温暖化を全体的な課題と捉え、専攻教育レベルに学生意識が9〜10と高く取り組みます。特に地球温暖化対策という人類の共通課題に対する意識向上として「自然エネルギー100%大学」を実現するとともに、これを社会に広げていきます。

防災・地域発展

5. 地域社会と連携し、地域の持続的発展および安全・安心なまちづくりを推進します。

SDGs in CUC

SDGの憲章
「SDGs X
千葉商科大学」
http://www.cuc.ac.jp/gdg/



ISO26000 7つの中核主題	取り組み事例	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
組織統治	SDGs行動憲章の制定 (P13-14) ESG披露 (P22) ガバナンスコードの制定 (P15-19) オンラインメディアによる情報発信[MIRAI Times] SDGs特設サイトからの情報発信	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
学生への対応 研究の充実 #ISO26000 貢献活動に特化	[学芸プロジェクト1:] 社会学の新展開「情報ネットワーク社会への対応と価値観」に関する新たな問いかけのあり方を探求 (P15) [学芸プロジェクト2:] 社会学の新展開「会計学を基盤とした実学教育の発展」 (P15) [学芸プロジェクト3:] CSR研究と普及活動「SDGs研究の推進と社会に必要とされるべきSR(大学の場合はUSR)の提案」 (P15) [学芸プロジェクト4:] 環境・エネルギー「普及啓発」によるESG意識の普及・啓蒙 (P15) [学芸プロジェクト5:] 安全・安心な都市・地域づくり「すべての世代、人が安心して住めるまちづくりの研究と実践」 (P16) [学芸プロジェクト6:] 安全・安心な都市・地域づくり「教育現場の地域との協働による実学実践」 (P16) [学芸プロジェクト7:] 環境・エネルギー「普及啓発」を通じて「持続可能な発展型ESG企業」を実現する (P15/P16) [学芸プロジェクト8:] 環境・エネルギー「普及啓発」による学生団体への実践推進 (P16) 学芸活動の推進「国際教育推進」の取組による海外交流プログラムの導入 (P16) SDGs推進の推進、自覚的での国際的なSDG教育の発展とSDGs行動を促す学生への普及活動 (P15/P16) 国際化戦略のデジタル推進 バーチャル国際交流の取り組み(CUC Online Program-Virtual International Square) (P16) グローバルなアクティビティ・ラーニング推進活動の展開 遠隔授業の開始とオンラインサービス(学生支援、卒業、就職、チャットボット)の充実化 (P16/P17) オフラインマッチングサイト「Free R AI(あらい)」の活用 (P17) 学生意見調査と授業アンケートの充実と公表 (P17) 大学版「Institutional Research」の活用による教育成果の可視化 アセスメントポリシーに基づく学習成果評価の実施 PC必修化とそれに対応する環境の整備 全学生への学修機会確保と学習支援を目的とした「特別修学奨励給付金」「アルバイト収入に対する学費支援給付金」の実施 (P16/P17) 奨学金制度の創設、奨学金制度、奨学金奨励給付金の充実 CUCがグッドパートナー賞の授与 (P17) 研究奨励金の創設 学生への奨学金の提供 (P17) 学食「The University DINING」におけるフードロス削減やプラスメニューの提供、フェアトレード商品の販売 産業界によるコンソーシアム等を進じた、ポテンシャル教育の推進 (P17) リアルとオンラインの両立を考えたハイブリッド型の学生募集 (P17)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
公正な 事業履行	法令遵守・危機管理・情報公開・個人情報保護 (P23-24) 事業運営の透明性、正当性、処断を高めるモニタリング機能の実施 (P24) 研究活動に関する管理・運用体制 (P24) ソーシャルメディアガイドライン (P24) 公益通報窓口 (P24)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
人権	ダイバーシティ推進 (P25) 寛容な学生支援(千葉商科大学における障がいのある学生の支援に関する資料) 教員のバリアフリー対応 バリアフリー化に向けた取り組み (P25) 千葉商科大学女性センターとの連携 (P25) FD-SDGs研修	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
労働履行	自己啓発支援制度・研修制度 教職員からの意見・要望を踏まえ導入された福利厚生や休職制度 教職員によるコンソーシアム、大学コンソーシアム等による地域社会貢献への貢献 (P25)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コミュニ への参加・発展	地域志向活動推進体制の構築 (P27) 市民活動サポートプログラムの実施 (P27)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
環境	環境憲章に合わせた「自然エネルギー100%大学」への取り組み (P13/P27) 太陽光発電設備・エコキャンパス (P13/P27) 行楽廃棄物回収活動 省エネ施設整備 (P27)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

本学のSDGsの関係性を表したものです。●は本学に関連するSDGsです。/その他、WebサイトにSDGsに関連する様々な取り組みを掲載しています。
*2019年度~2020年度における取り組みや活動・貢献があるものについてはページ番号を記載しています。

※1: 2019年度の「Institutional Research」の活用による教育成果の可視化を目的として、各学部等に別個に、大学版「Institutional Research」を各学部等に別個に実施する予定があり、今後、その活用が本格化するものと期待されています。

※2: 「Staff Developer」の活用による教育現場の改善や、学生への学びの場としての活用が期待されており、今後、その活用が本格化するものと期待されています。

2-2. 他大学発行の統合報告書との比較分析

統合報告書を発行している大学一覧 2018～20年

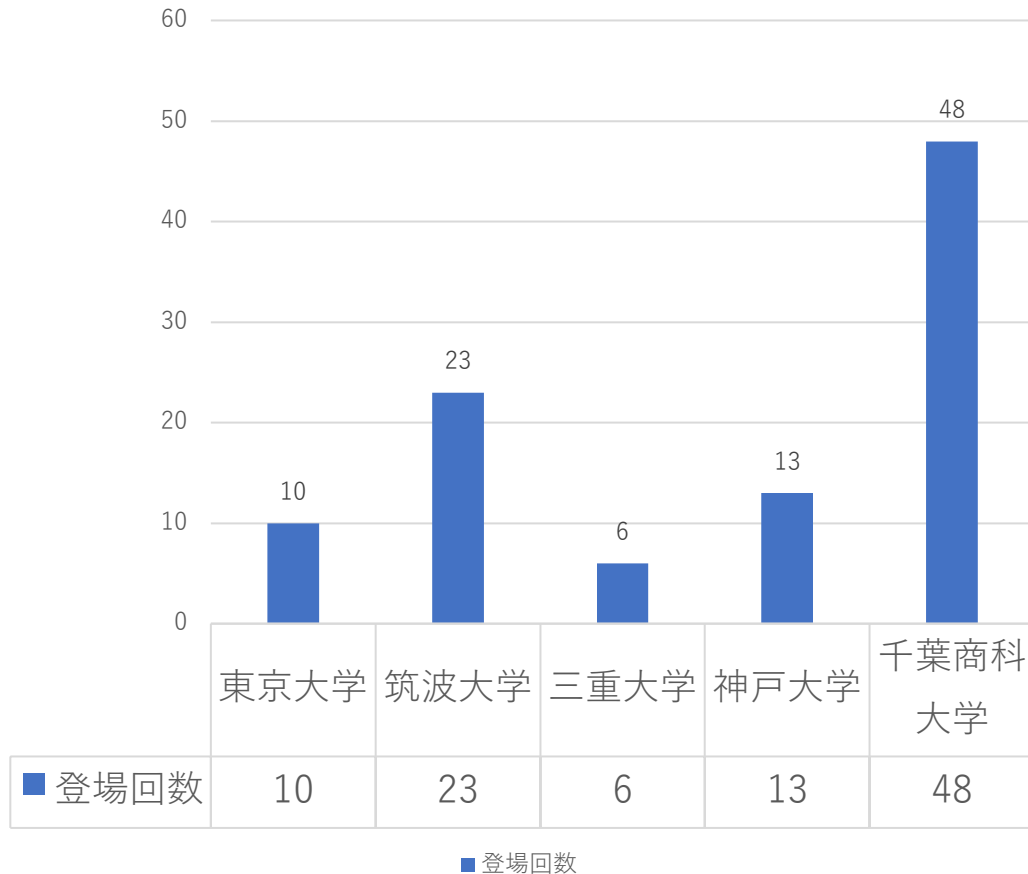
2018年度(1校)	2019年度(11校)	2020年度(16校)
東京大学	東京大学、宇都宮大学、 筑波大学、千葉大学、 一橋大学、新潟大学、 福井大学、三重大学、 神戸大学、岡山大学、 東京海洋大学	東京大学、宇都宮大学、 筑波大学、千葉大学、 一橋大学、新潟大学、 福井大学、三重大学、 神戸大学、岡山大学、 東京海洋大学、信州大学、 島根大学、北海道教育大学、 滋賀大学、東京外語大学

仮説

- 仮説①「SDGsに関する記載が多い」
- 仮説②「統合報告書に大学の特徴が出現する」

仮説①「SDGsに関する記載が多い」

「SDGs」の単語登場回数

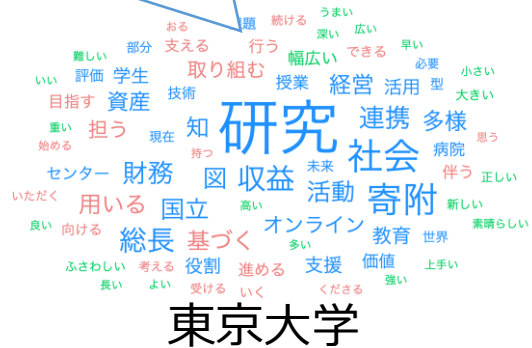


大学名	頁数	SDGs関連用語出現数 (1頁あたりの単語数)
東京大学	82	10 (0.12)
筑波大学	73	23 (0.32)
神戸大学	70	13 (0.19)
三重大学	49	6 (0.12)
千葉商科大学 (2021年版)	44	48 (1.09)

仮説② 「統合報告書に大学の特徴が出現する」

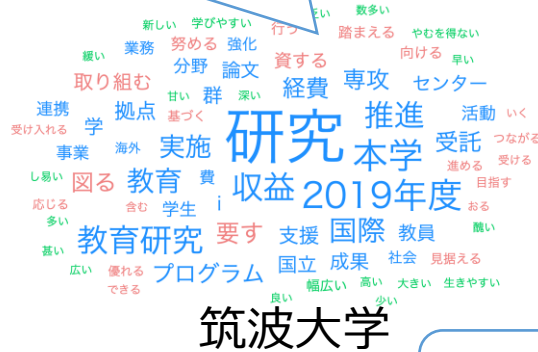
東京大学は、教育よりも研究に注力、三重大学はより地域に注力する傾向が現れている
千葉商科大学は、SDGs、自然エネルギーといった内容に重きをおいている

研究、社会、寄付、
収益、経営



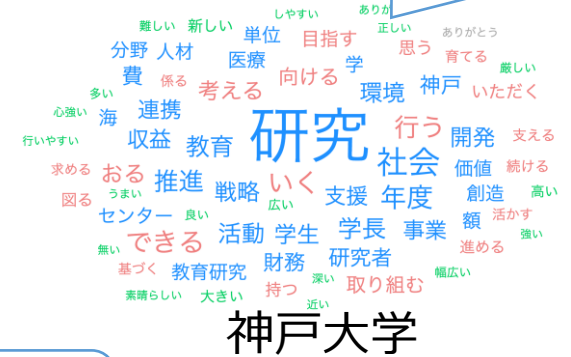
東京大学

研究、収益、国際、
教育、経費



筑波大学

研究、社会、環境、
収益、推進



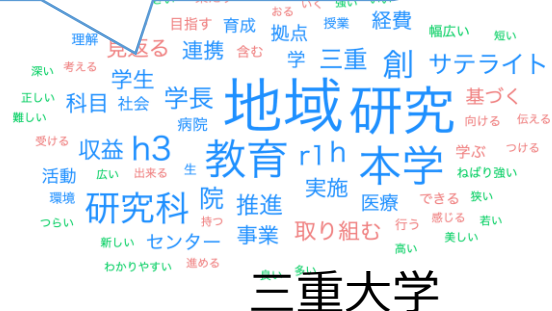
神戸大学

SDGs、教育、自然エネ
ルギー、社会、学生



千葉商科大学

地域、研究、教育、
三重、連携



三重大学

まとめ、今後の展開

- 多くの大学が、従来の大学とは異なる形で価値提供をしようと試みている
 - 研究・就職のためだけの大学の価値が変わりつつあることを示唆している可能性
- 今後の展開
 - さらにデータを増やして解析
 - クラスタリング等のデータマイニング技術を利用して、統合報告書をグルーピング


2-3. 本学統合報告書に盛り込むとよい指標の提案


- CUC統合報告書2022におけるKPIとして有益と考えられる指標を学生たちが検討
- THE Impact Rankings 2022の指標群に基づき下記を提案：
 - 本学がすでに取り組んでいること
 - まだ取り組めていないが今後取り組む／改善が必要と考えられること





CUC統合報告書2022におけるKPIとして有益と考えられる指標


THE Impact Rankings 2022より


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 1 貧困の削減 	1.3.3 低所得の学生の支援	生活支援給付金の付与	住宅や食料、交通費を大学が一部負担する
	1.4.1 地元の新興企業の支援	CUCアライアンス企業への人材供給・就職先確保	メンタートレーニングプログラムを取り入れ、企業の現状やそこで得た知識をもとに、大学の中で良き人材を育成する


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 2 飢餓の撲滅 	2.2.1 キャンパス内の食品の無駄の追跡		廃棄物の量を測定し結果を共有する
	2.3.3 キャンパスでの持続可能な食品選択	SDGsと向き合う学食として開発されたレトルトカレーの提供、「ど根性栽培ブルーベリー飲む果実酢」の開発	オーガニックやフェアトレードのものをキャンパス内で多く取り扱う

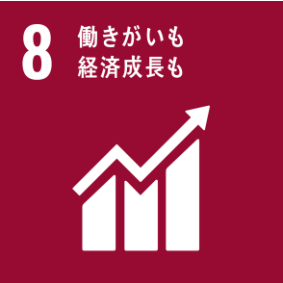
Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 3 健康と福祉 	3.3.2 医療アウト リーチプログ ラム	高齢者の活動支援を行っ ている。 (ボランティア)	健康や福祉に関するボ ランティアを増やす。
	3.3.3 共有されるス ポーツ施設		体育館やトレーニング ルームを一般開放する。
	3.3.6 無煙方針	喫煙所の削減を行なっ ている。	学内の完全無煙を実現 する。


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
<p>Goal 4 質の高い教育</p> 	<p>4.3.3 職業訓練イベント (生涯学習)</p>	<p>国府台コンソーシアム・ 大学コンソーシアム市川 による地域社会発展への 貢献を行なっている。</p>	<p>エグゼクティブ教育プ ログラムの実施を行う。</p>


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 5 ジェンダー の平等 	5.3.2 女性の出願・入学 の方針		大学入試案内パンフレッ トに前年度の男女入学比 率情報を提示。
	5.3.3 女性のアクセス計 画	女子cafeの実施 生理用品の無償配布	無償配布の情報を大学HP に開示する。


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
<p data-bbox="63 249 318 464">Goal 6 清浄水と衛生</p> 	6.4.1 水の再利用の方針	地下水膜ろ過システムにて安全な水を作り出している。	自然エネルギー100%に加え、水エネルギーにも力を入れる。
	6.4.2 水の再利用の測定		
	6.5.2 意識的な水利用の促進		ダイニングなども含め、無駄な水の利用に喚起を促す。
	6.5.4 キャンパス内の持続可能な水の抽出	地下水膜ろ過システムにて安全な水を作り出している。	


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 7 入手可能で クリーンな エネルギー 	7.2.5 エネルギーの浪費 の特定	ソフトウェア面ではEMSを 導入し、学内のエネルギー使 用状況可視化して省エネ・創 エネの施策に活用	エネルギーの見直しを行 い、エネルギー浪費が最 も高いところを特定し、 省エネにつなげる。
	7.3.1 平方メートルあた りのエネルギー使 用		大学のビルの床面積ご とのエネルギー使用を調査 します。全体を知ること で、改善の効果がわかり やすくなる。

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 8 十分な職と 経済成長 	8.2.2 雇用慣行組合		女性や外国人職員を含む 全員のための組合と労働 者の権利（集会の自由お よび団体交渉）を認識を 広めていく。
	8.2.3 差別に関する雇用 方針	2021年3月ダイバーシティ 推進宣言を表明	職場における差別の撤廃 の方針を示し、ダイバー シティ推進宣言の取り組 みを詳細に報告書に記載 した方が良いと考える。


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 10 人や国の 不平等を なくそう 	10.6.4 差別禁止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止への取り組みが行われている ・人種、民族、言動の差別 ・正確な情報ではない噂を助長させる情報 	必要に応じて追加
	10.6.5 委員会及び部署の有無	ダイバーシティ推進体制	準備中
	10.6.7 アクセス可能な施設	障害のある方でも使いやすいようにバリアフリーになっている	<ul style="list-style-type: none"> ・視線に入りやすい管内サイン ・視覚障害者のためのリーディングライン

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 10 人や国の 不平等を なくそう 	10.6.8 障害サポートサービ ス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害学習支援があり、学 生や大学生活でのサポ ートを受けることができ る ・ 差別禁止方針（ハラスメ ント防止への取組み） 	移動に困難のある学生 のために、普段利用す る教室に近い位置に駐 車場を確保
	10.6.9 障害者のためのアク セス計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学前の相談、入学試験 の受験、学習及び大学生 活の機会が得られるサー ビス 	必要に応じて追加


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 11 住み続けられるまちづくりを 	11.2.2 図書館への公的アクセス	学内関係者だけでなく一般開放している	
	11.2.4 緑地への公的アクセス	UD、6号館下のオープンスペースといったどれもが使えるスペースを提供している	
	11.3.1 芸術及び文化的遺産への支出		図書館、オープンスペースといった誰もが使える場所を提供しているため、その支出がどのくらいか出すべき
	11.4.3 リモートワークの許可	新型コロナウイルスの影響でリモートワークが始まっている	今回のリモートワークでの今後の改善点があるなら入れるべき


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 11 住み続けられるまちづくりを 	11.4.4 従業員の手頃な住居	住宅手当といった企業と同じようなものはある	社宅があれば学生だけでなく先生やスタッフにもやさしい大学にもなる
	11.4.5 学生のための手頃な住居	本八幡や金町といった、計6棟の学生寮を提供している	
	11.4.6 キャンパス内の歩行者の優先	大学内は基本、車両通行禁止	


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 12 つくる責任 つかう責任 	12.2.1 論理的な調達方針		ステイクホルダーへの影響がどのようなものか、これからの社会に必要な
	12.2.3 廃棄物処理の方針 有害物質		イオンなど大手企業が廃棄物の量を計っている中で、大学として取り組めたら他大学よりも先駆けた取り組みになる
	12.2.4 廃棄物処理の方針 埋め立てごみ処理 地方針		
	12.3.1 廃棄物の追跡		廃棄物がリサイクルされ、どのような場所で役立っているかを示すことにより環境への配慮が分かる


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 12 つくる責任 つかう責任 	12.3.2 リサイクルされる 廃棄物の割合		SDG s に力を入れているため環境にやさしい大学を目指すための目標になる
	12.4.1 持続可能に関する 報告書の刊行	統合報告書の作成をしている	千葉商科大学をより深く世間を知ってもらうために統合報告書の毎年刊行の継続化


Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 13 気候変動に具体的な対策を <div data-bbox="71 429 377 733" style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 13 気候変動に具体的な対策を  </div>	13.2.1 低炭素エネルギーの追跡	全大学内で使用されている低炭素エネルギーの量を測定している	100%台の維持 ガス比率の明確化
	13.2.2 低炭素エネルギーの使用	低炭素源からの総エネルギー使用量	
	13.3.1 気候に関する地元教育プログラム	地元の教育プログラムまたはキャンペーンを提供した	
	13.3.3 気候変動に向けての協働計画		政府と共に働きかける
	13.4.1 カーボンニュートラルな大学にするコミットメント	2030年から2050年までにカーボンニュートラルになる目標日が設定されている	2030年までに達成できなかった場合の、残り20年の目標を定める

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 14 海の豊かさを守ろう 	14.3.1 大洋の保全と持続可能な利用	フィールドワークin奄美	他学部でも参加できるようなイベントの設定
	14.4.1 排水ガイドライン及び基準		必要以上に排水が出ないように、ポスターなどの設置
	14.4.2 プラスチック廃棄物を低減するための行動計画	キャンパス内におけるプラスチック廃棄物を軽減する行動計画がある	削減率のデータ化
	14.4.3 海洋汚染の低減	海洋汚染、特に陸上活動から生じる公害予防および低減することに関する説明がある	

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 15 陸上の生命 	15.2.1 持続可能な土地利用に関するイベント	「サバイバルキャンプinいちかわ」や「CUC100ワイン・プロジェクト」をおこなっている。	電気だけではなくガスも含めた総エネルギー消費量を考慮した自然エネルギー100%の実現
	15.3.1 接続可能な土地の使用、保全、回復	「サバイバルキャンプinいちかわ」や「CUC100ワイン・プロジェクト」をおこなっている。	
	15.4.1 排水ガイドラインおよび基準		ガイドラインを確認
	15.4.2 プラスチック廃棄物の削減に関する方針	ゴミの分別、プラスチック製品の廃止が出来ている。	
	15.4.3 危険廃棄物処理に関する方針		ガイドラインを確認

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 16 平和と公正、 強固な機関 <div data-bbox="63 486 379 801" style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>16 平和と公正を すべての人に</p>  </div>	16.1.3 平和と公正 と強固な機関 - 刊 行数		平和と公正に関する刊行 物の作成。
	16.2.1 選出された 代表人		学生でも代表者がいれば 学内での意識が高まる。
	16.2.3 地元のス テークホルダーを 特定し、関与しま す		分かりやすく特定すれば 連携の密度が取れる。
	16.2.6 学術に関する 方針		学生に対して自由さを強 調するための働きかけを 行う。
	16.2.7 財務デー タの公開	公式 HP に財務情報が公開さ れている。	

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 17 目標達成のためのパートナー 	17.2.1 SDG 政策のための地域 NGO および政府との関係		SDGs に力を入れている為関わったほうがより良い
	17.2.3 SDG データ収集の国際協力		海外の学生との交流を生かし、データ収集、測定ができるのではないか。
	17.2.5 SDG のために NGO との協力		学生のボランティアプログラム、研究プログラム、教育資源の開発のいずれも行える余地がある。これらが行えればNGOとの協力も目指せるのではないか。

Goal	Targets	既に取り組み中のもの	今後取り組むべきもの
Goal 17 目標達成 のための パート ナー 	17.3.1~17.03.17 報告書の刊行 17.4.2 SDGsに関する特有のコース	統合報告書2021に SDGs 憲章に即した千葉商科大学の体系や取り組みが 載っている。 奥寺ゼミ、斎藤ゼミ、橋 本ゼミで SDGs に関する研 究を行っている。選択科 目では生活環境論がある。	

< 主要参考文献・資料 >

- 私立大学社会的責任（USR）研究会（2004, 2005, 2006, 2007）『私立大学の社会的責任に関する研究報告』
- 私立大学社会的責任研究会（2008）『USR入門—社会的責任を果たす大学経営をめざして』
- The International Integrated Reporting Council (IIRC)
<https://integratedreporting.org/>（2021年9月7日確認）
- International Integrated Reporting Council (2013) *The International <IR> Framework*, IIRC（日本公認会計士協会・翻訳レビュー作業部会訳（2014）「国際統合報告フレームワーク日本語訳」）
- Times Higher Education University Impact Ranking 2021
https://www.timeshighereducation.com/impactrankings#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/undefined（2021年9月7日確認）
- Times Higher Education University Impact Ranking 2022 “THE Impact Rankings METHODOLOGY 2022 (Japanese)”
- University of Indonesia “Green Metric World University Ranking”
<https://greenmetric.ui.ac.id/>（2021年9月7日確認）